

みかい

安住院便り
(第34号)

平成27年1月1日発行

〒703-8236

岡山市中区国富3丁目1-29

住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

高野山開創千二百年

昨年は四国八十八ヶ所霊場開創千二百年で、記念行事が四国各霊場で行われました。本年は、高野山開創千二百年として、高野山山上伽藍を中心に行われる予定です。

弘法大師空海上人は、唐の国（今の中国）で、当時最新の仏教であった密教を授けられ、日本にて真言宗として弘めようと、約十年をかけて準備をなさいました。

それが認められ、全国に信者を増やす為、写経をお願いし、ご自分でも各地を巡られました。それが四国霊場の始まりとされ、最後に弟子の育成のための道場を造るべく、今の高野山の地に登られたのです。

その当時は京都の都が中心で、寺院もそのまわりに築かれていましたが、大師は、わざわざ人里離れた山奥に、修行の地を探されたのです。そのため、高野山と京都を何度も往復され、朝廷との関係を保ちつつ、新しい仏教の基礎を築かれようとしたのです。とても素晴らしい地を選ばれたものです。



実際に、京都や奈良の寺院は、時代時代の政治に翻弄され、戦禍に巻き込まれたことも多くありました。その意味でも、高野山の山上伽藍は、密教修行の地には最適なところでした。現当院副住職もそうでしたが、今でも多くの修行僧が生活しています。

そして、大師が御入定されたのも、高野山の奥之院の地です。その近くには、今では数多くの墓標が立ち並んでいます。大師と共に休みたいの思いと同時に、高野山の地が、大師が築こうとされた仏様の国の中心であるからなのです。

今では、ケーブルカーも通り、スカイライの参拝も可能になりました。しかし、出来ればお寺の宿坊に泊まって、ゆっくりと高野山の雰囲気を感じてもらいたいものです。早朝から夕刻まで、それぞれ異なった素晴らしい山上伽藍を、五感で味わうことが出来ます。

今の時代、情報があふれ、情報に溺れまいと苦悩している方も多はずです。一度それらを一切遮断して、静かに自分の心の本当の思いと向き合う時間の大切さを考えて下さい。そのためには、高野山の地は最高です。お大師さまが、そのように願った場所なのです。

合掌

安住院ホームページ <http://www.anjuin.com/>

初観音法会のご案内

来る一月十七日（土曜）

午後一時より

本尊千手観音御宝前に於いて、大般若祈祷並びに護摩供を厳修致します。

年頭にお配りする「とし書き」にご記入の上、ご参詣下さい。また、特別祈祷も申し受けますので、三日前までにご連絡下さい。

（生駒 善勝）（その④）

今から六年前、平成二十一年三月より一年間、高野山・金剛峯寺第五百十世・寺務検校執行法印（ジムケンギョウシギ ヨウホウイン）（通称は法印）の随行（ズイコウ）になりました。法印とは弘法大師のお手代わりとして、高野山の法要や行事に一年間出仕する役職です。随行とは、法印様が法要に集中出来るよう、衣の用意などの身の回りのお世話をする係です。

随行に成りたいと思う僧侶は多く、大学生の時には憧れてはいましたが、高野山で働くようになったからは、自分には縁の無いものだと考えていました。それは、希望すれば成れるものでもなく、法印様の関係深い山内の僧侶から選ばれるものだったからです。そして、先輩より「随行を探しているの、勤めてくれないか。」と言われた時も、随行の名前は知ってはいましたが、実際には何をして良いのか分からず、不安でいっぱいでした。その時、金剛峯寺の上司に、「せつかくの良い機会だから」と、勧められ決心を致しました。その後は、上司先輩方の御助力により、一年間の職務を無事に勤め終えたと共に、法要での作法・振る舞いなども勉強することが出来ました。

高野山に於いて、法印様の随行が出来た事には、本当に（ご縁）という言葉しかなく、心より有り難く、感銘しております。

丹波古刹霊場参拝③

昨年十月二十九日、丹波古刹霊場の第三回目の参拝を行いました。今回は霊場の南部、篠山市・丹波市にある五ヶ寺でした。

古刹霊場参拝の最後になりましたが、山深い静寂に包まれた由緒有る各寺院では、お金だけでは築けない歴史ある佇まいを味わうことが出来て、秋晴れの中、ゆつくりとお参り致しました。

まだ、秋の紅葉には少し早かったようですが、その準備を急いでる所もあり、もうすぐ大勢の観光客で、にぎやかになるこのことでした。

今回の所は無事だったようですが、二年続きの豪雨のため土砂災害の被害に遭われた寺院もあり、心より御見舞申し上げ、一日も早い復旧を祈念致します。

次の予定は、四月三十日（木）で、新たな霊場参拝を考えています。是非ご参加下さい。

